

2024年度 裁判所事務官（一般職）本試験（基礎能力試験） 講評

No.	科目	出題内容	正解	正答率*	講評
1	文章理解 (現代文)	内容把握	2	B	【文章理解】(現代文) 例年どおり、内容把握3題、空欄補充1題、文章整序1題の計5題の出題であった。内容把握において、肢内で示されている事柄同士の関係性を適切に判断できなくては誤答肢と判断できない問題も含まれるものの、全体として正答が選びやすい出題である。空欄補充は、例年とはやや傾向が異なる出題であった。しかし、正解肢が明確な問題である。昨年までに比べて難易度は下がっていると捉えられる。
2		内容把握	5	A	
3		内容把握	5	A	
4		空欄補充	3	B	
5		文章整序	4	A	
6	文章理解 (英文)	内容把握	1	A	【文章理解】(英文) 昨年までであった空欄補充問題がなくなり、内容把握3問、文章整序1問の合計4問となった。昨年は本文の例えから筆者の主張を読み取るという珍しい問題が出たが、今年は目新しい出題形式の問題はなかった。昨年と比べて問題数が減少したぶん、内容把握の文章量が増えた。特にNo. 7は文章量が多く、全文を読むには時間を要する問題であった。このような問題を解く際には、選択肢を先に見て正誤の根拠が本文のどのあたりにあるのか、素早く見つけ出すことが重要である。
7		内容把握	3	B	
8		内容把握	2	B	
9		文章整序	4	B	
10	数的処理 (判断推理)	論理(論理式)	4	C	【数的処理】 判断推理：基礎能力試験の出題数変更に伴い数的処理全体の出題数は減少したものの、判断推理の出題数は、昨年度の8題から9題(No. 10～No. 18、No. 17とNo. 18は計量以外の図形)と増加した。全体的な難易度として、昨年度と変わらず標準的であった。No. 16までは純粋な判断推理の問題で、論理、順序関係、数量推理など近年の試験でも出題されていた単元の問題もあれば、No. 13のディラックの帽子やNo. 15の暗号といった出題されていなかった単元の問題もあった。ただし、これら2問とも正答率が高かったことから、出題頻度に関係なくどの分野も満遍なく勉強していた受験生が多かった印象を受ける。また、判断推理の問題が基礎能力試験全体の約1/3を占めることになったが、先述の受験生も含め判断推理をしっかりと対策していた受験生は、基礎能力試験の1科目とはいえここで優位に立つことができたのではないかと思う。
11		真偽	3	A	
12		順序関係	2	B	
13		推理	2	A	
14		数量推理	5	C	
15		暗号	1	A	
16		対応関係	3	B	
17		平面図形の分割・構成	3	B	
18		軌跡	2	C	
19	数的処理 (数的推理)	濃度	1	A	数的推理：今年の出題数は、基礎能力試験の出題数変更に伴い昨年度の8題から5題(No. 19～No. 23、No. 23は図形の計量)に減少し、難易度は易化した。全体的にみても、Kマスター数的処理で扱っている問題と同等レベルの基本的な問題が並んだため、講義の復習を行い十分に理解していれば得点できる問題であった。特に、No. 21では数珠順列の場合の数を求めるときに、左右対称になる配置とそうでない配置で計算的な違いがあること、No. 23では直円すいと内接する球の位置関係、内接円の半径を用いた三角形の面積の導出方法を利用して解くこと、を抑えていけば失点を最小限に抑えられるだろう。
20		速さ	2	A	
21		場合の数	3	C	
22		最小公倍数	1	A	
23		平面図形の計量	4	B	
24	数的処理(資料解釈)	表(実数・構成比)	3	A	資料解釈：今年の出題数も例年どおり1題のみ(No. 24)で、従来どおりの基本レベルの問題であった。こちらもKマスター数的処理で扱っている問題と同等レベルの問題であったため、各選択肢の正誤確認をしっかり行えば、得点できる問題であった。さらに、選択肢を順番に検討した場合、肢1で言われている割合を分数にしたときに分子の4倍と分母を大小比較して誤りと判断できるか、肢3でイランの生産量を計算しなくても、中国の生産量を計算した時点で正しいと判断できるか、など効率よく解けるとよい。
25	時事	日本の経済	5	C	
26		日本の政治	4	A	
27		世界の状況	5	B	
28		教育・文化	4	B	
29		環境・科学	1	C	
30		環境問題	3	C	
					【時事】 今年度から試験内容が変更され、知識分野は時事問題を中心とした問題が出題された。その構成は、日本の経済、日本の政治、世界の状況、教育・文化、環境・科学、環境問題の6問だった。これらのうち、日本の経済、日本の政治、世界の状況の3問については、時事の知識以外に社会科学の知識でも絞り込める選択肢があり、平易な問題といえる。教育・文化、環境・科学については、普段から社会情勢等に関心を持っていけば対応できるほか、一般常識の範囲でも正誤が見いだせる選択肢がある比較的に容易な問題といえる。環境問題は、詳細な内容を問う選択肢もあるが、普段から社会情勢等に関心を持っていけば対応できる範囲の出題である。いずれも基本レベルから標準レベルの問題なので、6問中4問以上正解しておきたい。

※ 正答率(A:60%以上、B:40%以上60%未満、C:40%未満)は、LEC公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ(5/22 12:30時点)に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、LEC公務員Webサイトの専用ページ(<https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/>)にてご案内しています。



KL23771